

海外研修助成事業による研修の成果

研 修 者 氏 名	櫻 井 卓 郎
所 属 機 関	国立がん研究センター中央病院 リハビリテーション室
<ul style="list-style-type: none"> ・研修に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	1st Occupational Therapy Europe Congress
渡 航 期 間	自 2024/10/12 至 2024/10/20
<ul style="list-style-type: none"> ・研 修 内 容 ・国際学会・会議内容 	脳腫瘍患者のための包括的な生活支援ツールの開発 Development of comprehensive lifestyle support tools for patients with brain tumors and their families
<p>研修成果 （ 要約：800字 ）</p> <p>2024年10月15日から19日、ポーランド・クラクフに「1st Occupational Therapy Europe Congress」が開催された。本学会はヨーロッパにおける作業療法士の国際学会であり、多岐にわたる演題が発表された中、私はポスター発表を行い、がん関連のセッションを聴講した。</p> <p>私の発表では、主に脳腫瘍、特にグリオーマ患者とその家族を対象とした情報支援ツールについて報告した。このツールは、リハビリテーションおよび看護の分野で10年以上グリオーマの臨床経験を有する専門家8名の協力のもと開発されたものである。患者と家族が抱える疑問をもとにカテゴリーを分類し、基礎知識や生活支援、社会復帰など7つの領域に分けた具体的な回答をクエスチョン形式で作成した点が特徴である。特に、患者と家族が独自に必要な情報を探すことの困難さや、情報提供時に疾患特化型の視点を強調する必要性を指摘した。発表後の質疑応答では、ヨーロッパの作業療法士から「脳血管障害と類似する支援情報を統合できないか」という意見や、「脳腫瘍リハビリ特化のリーフレットが自国にはないため、翻訳版があれば有用」との声が寄せられた。このやり取りを通じて、私たちの取り組みが国際的にも共通の課題であることを確認すると同時に、今後のツール改良に向けた貴重な示唆を得た。</p> <p>また、がん関連以外では「難民支援」「移民支援」「戦争における作業療法」というテーマの演題を聴講する機会も得た。これらのテーマは日本国内の学会では見られないものであり、同職種として強い印象を受けた。</p> <p>学会期間中、欧州や台湾の作業療法士と意見交換を行い、新たなネットワークを構築することもできた。このネットワークと学びを、今後の研究や実践に活かしていきたいと考えている。この学会参加は、異なる地域の作業療法士との意見交換や新たな視点の獲得を通じて、私の研究と実践の幅を広げる大変意義深い経験であった。</p>	